

# 湯沢CS通信

令和8年4月15日 第92号  
(発行) 湯沢市教育委員会  
学校教育課 CS担当

陽春到来！令和八年度がスタートしました。今年度も各校の「地域とともにある学校づくり」の実現に向けて、コミュニケーション・スクールの一層の推進に努めていきたいと考えています。御協力よろしく願います。

さて、湯沢市では市内全小・中学校をコミュニケーション・スクールに指定して七年目に入りました。これまで各校では、学校や地域の課題解決に向け、「学校と地域が連携・協働して何ができるか」という視点で協議が進められてきました。今年度も校長先生が作成する「CS基本構想」と「CS実施計画書」のもと、「地域とともにある学校づくり」を目指していただきたいと思います。



## 令和七年度の成果と課題

各校の校長先生から提出していただいた「CS評価書」をもとに、昨年度の「成果と課題」についてまとめました。

### 成果1

様々な機会を通して、学校への意見等を収集し、学校運営に反映させている。

▽保護者アンケート、地域学校協働活動推進員の活動、熟議（委員、保護者、地域住民が参加）、地域代表者との会議などを通して、意見等を収集した。

### 成果2

学校の壁を取り払い、様々な機関と連携・協働し、事業を実施している。

### 成果3

▽トークフォークダンス、防災教室、開校50年事業、閉校関連事業、街のほいくえん、総合プロジェクト、皆瀬カエデ祭り、地域住民参加の熟議などを実施した。

委員が主体的に協議に参加し（熟議も含む）、学校の課題解決に取り組んでいる。

▽教育目標やその具現化のための取組、学校の重点課題などを理解し、協力し合いながら業務を遂行した。

### 課題1

地域住民の声を幅広く吸い上げることが難しい。

▽地域の声を学校が集約するためのシステムの構築を見出せない。また、幅広い世代との情報共有など工夫が必要。

### 課題2

事業を実施する前に、活動のねらいや進め方等の確認が不十分だった。

▽地域住民、保護者、生徒が共に活動する事前の構想・手立りが弱い。活動のねらいについての共有も必要。

### 課題3

工夫をしているが、保護者や地域住民へのCSの周知が進んでいない。

▽目指す子ども像や活動内容などは、地域に十分に伝わっていない。学校と地域との交流活動や協働活動を充実させ、CSを広く周知させたい。

◇今年度も各校の学校運営協議会に出席させていただきます。お手数をおかけしますが、委員の皆様にご送付されている開催案内を、メールで送ってください。よろしく願います。

学校教育課指導班

[k-shido-gr@city.yuzawa.lg.jp](mailto:k-shido-gr@city.yuzawa.lg.jp)

CSディレクター 伊藤秀樹 宛て

目標

未来を創り出す子どもたちの成長のために、学校のみならず地域住民や保護者も含め市民一人一人が教育の当事者となり、地域総掛かりでの教育の実現を図る。

「地域とともにある学校づくり」を進め、学校と保護者、地域住民が一体となって子どもたちの健やかな成長を支援する。

CS導入で期待される効果

子育てに関わる学校、家庭、地域の役割分担が明確になり、それぞれの立場で子どもたちの健やかな成長を支援するようになる。

具体的には

子ども・家庭

- ・多様な地域住民との活動で体験活動が充実する。
- ・多様な人的交流により人間関係が広がり、地域の中で子どもたちが育てられているという安心感をもつ。
- ・コミュニケーション能力が向上する。
- ・子どもが地域の担い手としての自覚をもつ。
- ・子どもの地域貢献や地域活動を促進できる。

学校

- ・子どもと向き合える時間を確保できる。
- ・地域の力を生かして教育の質を上げる。
- ・学校の課題や現状を理解してもらえる。
- ・地域資源を生かした特色ある学びができる。
- ・安定した学校運営と地域との協働体制の維持・継続ができる。
- ・地域の協力を得て、学校を核とした教育の仕組みができる。

地域

- ・住民や保護者が教育の当事者となり、幅広く教育活動に参加できる。
- ・多様な層の地域住民や団体が教育活動に参画することで、地域が一層活性化する。
- ・知識や経験を生かしたボランティア活動を通して、生きがいを感じる。
- ・地域全体の協力意識が高まり、人と人とのつながりが生まれて、子どもたちから元気や幸福感をもらえる。

CSの充実に向けた具体的取組

◎ 保護者や地域住民に対して、CSの周知を図る。

- ・CSとは、学校(教職員)、保護者、地域住民が同じ方向を向いて、協働で子どもを育てる体制。
- ・学校運営協議会とは、学校(地域)の課題解決策を話し合ったり、成果を確認したりする組織。

◎ CSにおいてPDCAサイクルを機能させる。

- 1 校長が学校運営協議会で学校の課題を提示する。
- 2 学校運営協議会で解決策を協議(熟議)する。
- 3 課題解決策を提案し、委員自身が主体的に活動する。
- 4 活動の成果を振り返る。

◎ 「熟議」を推進する。

たくさんの当事者(委員、保護者、地域住民、児童・生徒、教員など)が参加して行う熟議が有効!

◎ CSと地域学校協働活動を一体的に推進する。

地域学校協働活動推進員の協力を得ながら

◎ 学校運営協議会委員の主体的な活動を推進する。

部会やプロジェクトチームを作るなど